

## Z309c 木辺成麿和尚からみる仏の道と天文学

上田華穂, 林里沙子, 中尾真弓 (京都女子大学), 河村聡人 (京都大学), 道越秀吾, 水野義之 (京都女子大学)

京都女子大学は京都市の東山に位置する仏教系の女子大学であり、天文教育が断続的に行われてきたことがわかっている。その天文教育の中心となる京都女子大学附属小学校の20cm反射望遠鏡の由来を調べるなかで、京都女子大学の創設者である九条武子と鏡磨きの名人として名高い木辺成麿和尚との興味深い関係性も見えてきた。木辺成麿和尚は錦織寺の門主の家に生まれ、中学生のうちから京都大学花山天文台の技官であった中村要氏から鏡磨きの薫陶を受けた。後に多くの鏡を制作し、鏡制作の第一人者となったことは良く知られた歴史である。しかし、その背景にいた人々についてはあまり考察されていない。今回、木辺和尚の執筆文章を中心に幼少から青年期の木辺成麿の周囲の人々について調べた。特に目立った3名について述べる。木辺和尚を中村要に紹介したのは姉の夫であり、花山天文台の初代台長である山本一清の個人助手であった藤谷為隆であった。また、木辺成麿和尚の叔母である九条武子の夫、良致（よしむね）は、義兄（九条武子の兄）である大谷光瑞に勧められケンブリッジ大学に天文学を学びに留学している。しかしながら、在学中に天文学から法制経済学へ転向している。さらに錦織寺の長老には天文に造詣が深い人物がおり、木辺少年が天文へと進む後押しを行っている。この様に仏門の家とは言え、当時のアカデミズムを身近に感じる、決して保守的な環境ではなかったと思える。当発表は鏡磨きの名人木辺成麿和尚と、その背景に見え隠れする天文学に関係する人々を見比べ、当時の仏教と天文との関係性に新たな視点をもたらそうと試みるものである。